

## 日韓議連行政視察のうち、井上章担当の部分のみ

### 公立小学校における、ICP教育について

テーマ:	韓国の教育制度
日時:	7月21日(火) 午前
訪問先:	公立新堂小学校(ソウル市中区新堂洞)
応接者:	陳泰星校長、ウ・ジオン教諭
報告者:	大阪府議会議員 井上 章

#### 韓国の教育制度の概略

韓国の教育制度は日本と同じく 6-3-3-4 制で、小学校の 6 年間と中学校の 3 年間が義務教育、その後、高校 3 年間と大学 4 年間は選択です。大学は日本の短期大学にあたる 2 年制の大学もあります。

1 学年は 3 月から始まり翌年の 2 月までで 1 年間となり、夏休み(7~9 月)の前後に分かれる 2 期制 が一般的です。入学と卒業が日本より約 1 ヶ月早くて、受験日も 11 月です。

韓国の進学率は非常に高いです。現在(2005 年)、小学生の 99%が中学校へ進学しますが、中学校での無償での義務教育は 1985 年に整備され始めたばかりで、2004 年に全国的に無償で義務制に統一されました。

また高校への進学者は 99.3%(日本は 94.4%)で、高校は普通高校と職業高校に大きく分かれ、普通高校の中には芸術や外国語、体育など特定の分野に力を入れた専科の学校が、職業学校には農業、工業、商業、水産などの実業系列学校が含まれます。

大学や専門大学への進学率は 98.8%(日本は 50.7%)と驚異的な数字です。大学は一般的に 4 年間となっていて、入学試験は高校の内申書、入試試験、推薦状など学校によって多少違いはありますが、これらを併用して選抜を行っています。

大学を修了した後、修・博士過程に進学することができる大学院が設置されています。

### 【 公立新堂小学校における 取組事例( 3 年生の 授業視察)】

小学校であるが、動画編集の授業を行っていて、子どもは、いきいきとした様子で授業に取り組んでいたと思う。学校でも、発達段階にあわせて系統的に ICT 教育(情報コミュニケーション技術)を取り入れている。

外国語の指導では、パソコンを使ったチームティーチングが行われており、ALT が発問をはじめ、子どもとのやりとりを行う傍ら、担任はパソコンを用いて、授業の進行管理を担うなど、効果的な展開がなされていた。



初めて電子黒板を目にしました。本当のところ電子黒板についての知識がなく、モニターでパソコン画面が現れて、授業に生かすものなのかと考えていましたが、もっと進化しており、画面で字を書いたり、個々の子どもたちのパソコンでの状況を把握することができ、個別指導も可能であることがわかりました。当日は夏休みの授業でもあり、アフリカでの子どもたちの現状を画面を見て、が電子黒板を利用することで、感想文を書いて、相互で話し合いを行う事業でした。



(Wikipedia から)

欧米では、インタラクティブ・ホワイトボードの導入が進んでいる。教育ソフトなどコンピュータの画面上に表示できるものなら何でも表示し生徒に見せることがで



電子黒板の学校利用

イトボードのソフト、Web サイト

きる。プロジェクタはコンピュータと接続すればインタラクティブ・ホワイトボードとして使用でき、「オブジェクト」を使用できる機種では教材作成がきわめて容易であり、極めて効果的な授業が可能である。DVDプレーヤーなどと接続することも可能である。さらに、授業でホワイトボード上に教師が描いたことを記録しておき、後で生徒に配布することもできる。これは復習の意味もあるし、授業を休んだ生徒にとっても有用である。さらに記録を印刷しないで時系列的なデータとし、同時に教師の音声を録音して付与することで授業を再現することが可能となる。

図書室では多くの子どもたちが、お母さんたちのボランティアで読書活動に取り組んでいました。文字を読むという基本的な活動を大切にすることも活動しています。



また、説明によると、校務処理については、98%が電子化され、ほぼペーパーレス。また、国が管理したサーバーが学校毎に割り当てられ、通信速度も速く、指導要録等全てのデータが集中管理されている。この結果、細かい事務処理はストックされたデータをもとに処理ができるし、保護者等からの開示請求に対しても、個人認証を通じて随時、対応できる。あるいは、「学級通信」もホームページで公開、パソコンがない家庭にもパソコンを支給するなどインフラの整備も徹底している。ICTを利用することで、事務に係る費用は減った。

少し見にくいですが、学校での子供たちの様子その他を知るためのページが用意されています。(最終参照)

## 陳 泰星( J i n T a s - s e o n g ) 校長先生のあいさつ

本日は日本・大阪からお越しいただいた府議会議員の皆様のご視察先に当学校を指定していただきありがとうございます。

わが国は特にITC教育(情報コミュニケーション技術)に力を入れており、モデル校として開学して2年目で、都市型小規模小学校です。以前には佐賀県教育委員会もお越しいただいています。

ITC教育で世界一を目指しています。



本日は夏休みのため、いくつかのプログラムを2クラスで用意しています。  
貴国の教育活動の参考になれば幸いです。

ウ・ジオンさん(日本語を独学でマスターした先生です)

私たちは未来を見つめる教育をめざしています。  
本校は476名の生徒と25名の教職員で構成しています。  
教育目標は、自分らしい教育である、「人性教育」をめざしています。校内には図書館、英語のまちなども設備されています。

韓国では、家庭での「しつけ」から学校での道徳教育、平和教育なども含め、  
子どもの望ましい人間性を涵養する教育のことを人性教育という。

IT教育はハードウェア、ソフトウェアなどインターネット教育を進めています。  
電子黒板も18のすべての教室に設置され、ダイレクトでノートパソコンと接続され、  
オンライン漢字教育や英語教育に活用されています。

#### 質疑応答

Q:情報管理は重要な作業のひとつと思いますが、パソコンの管理はどのようにして  
行われていますか。

また、教育活動を行うに当たり、先生の習熟度を高める必要がありますが、先生  
は授業を始める前の準備はどうして行われていますか

A:教師の習熟度は充分です。教育庁からの予算多く、習熟度は進んでいます。

Q:日本での議論の中に先生の授業以外の事務作業が多く、本来の教育活動に専念  
できないことが問題になっています。

このシステムの導入により、先生の雑用をどれくらい避けることができるのでしょ  
うか。

A:あまり時間がないことが実情です。日本と同じです

A(教頭先生):韓国語では答えた若い先生に対して「そのような答えをするものでは  
ありません」と窘めているようでした。

正式回答は、個人の時間を活用できるようにしています。研修の受け入れも変り、  
教育庁から研修費が出ています。また、夏休みでもインターネットやEラーニングで  
の研修も可能で、増えてきています。

Q:この学校はモデル校でもありますが、全国でも校内ラン 100%と聞いていますが、一般校の教育はどうなっているのでしょうか。

A:電子黒板は普及するまでには至っていませんが、約2兆億ウオンでパソコンとモニターを全小学校への配備を進め、教育に活用しています。そのため、インターネットを活用して、全国均一の教育内容を保障できます。

A:10年程前から、モニターが小学校に設置され、インターネット速度も従来は10MBでしたが、現在では50MBへとアップし、教育への活用度も向上しました。

Q:日本では今年、景気対策の費用で47chのモニターが設置競れることになりました。大阪では30%普及が現状です。

A:教室で見られましたように、エデュネットがあれば、意欲さえあればどのサイトのものも入ることができ、勉強することができます。

韓国では私学に子どもが通う傾向にあり、塾に行かなくても良い環境をどのようにしてつくるかができるかが課題です。高校でもインターネット教育が進められています。

学習能力を高め、生徒の能力が確認できる環境を整備するよう進めています。